

3 鹿児島県育成新品種「しまあかり」現地適合性の検討

1 課題を取り上げた理由及び目的

本地域ではこれまで、ジャガイモシストセンチュウ抵抗性新品種「しまあかり」と、抵抗性を有しない地域慣行品種「ニシユタカ」を比較し、産地導入の可否について検討してきた。10月下旬及び11月中旬植付けの作型では長崎県産冷蔵種子、12月中旬では北海道産無冷種子の「しまあかり」を供試し、12月中旬植付けでは「ニシユタカ」と比較して出芽がやや遅れたものの、収量は同等以上であり、本地域へ導入可能であると考えられた。一方で、長崎産冷蔵種子を用いた10月中旬及び11月中旬植付けでは、出芽不良等により安定した収量を確保できなかった。そこで本年度は、11月中旬植付けの作型において、北海道産無冷種子「しまあかり」を用いて、現地適合性を評価する。

2 実証の概要

(1)設置場所 伊仙町農業支援センター内ほ場（以下、伊仙町ほ場）

天城町天城現地ほ場（以下、天城町ほ場）

(2)実証期間 令和6年11月～令和7年3月

(3)供試作物 ばれいしょ

(4)耕種概要

ア 試験区の面積 32.4 m² (13.5m×2.4m)

イ 植付け日 令和6年11月21日（伊仙町ほ場）、12月3日（天城町ほ場）

ウ 栽植距離 株間 15 cm，畝間 80 cm

エ 施肥 オール 14 100 kg/10a (N:P:K=1.4:1.4:1.4)

オ 区制 1区20株，3反復

(5)区の構成

試験区	供試品種	種いもの由来
試験1	しまあかり	北海道産（無冷）
試験2	しまあかり	長崎県産（冷蔵）
対照	ニシユタカ	北海道産（無冷）

(6)調査方法

ア 出芽率

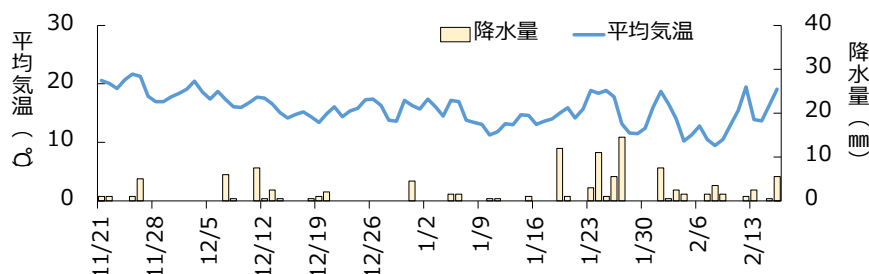
植付け約30～40日及び約60日後に出芽数を調査し、次式により出芽率を算出。出芽率(%) = (出芽数/植付け種いもの数) × 100

イ 収量調査

植付け約100日後を目安に収穫し、①種いも1個あたりの茎数②いも個数③重量④そうか病・粉状そうか病発生程度を調査する。

(7)試験期間中の気象概況及び試験の経過

植付け日以降にまとまった降水がなく、かん水設備のない伊仙町農業支援センター内のほ場（以下、伊仙町ほ場）では、出芽が大きく遅れる等の影響を受けた。同ほ場では12月26日に動力噴霧器を用いて、十分量のかん水を行った。一方で、天城町ほ場は、かん水設備を有しており、土壌乾燥時にはかん水が行われた。



3 調査結果

(1) 出芽率

ア 1 回目調査

試験開始後から降水量の少ない日が続いたため、伊仙町ほ場ではいずれの区においても出芽率が低く、品種及び種いもの由来による差は認められなかった（図 1）。一方、天城町ほ場ではかん水の効果が認められ、対照「ニシユタカ」の出芽率は 90% 以上に達した。「しまあかり」の出芽率は種いもの由来によって大きく異なり、北海道産はニシユタカと同等、長崎県産はニシユタカと比較して劣る結果となった（図 2）。

イ 2 回目調査

伊仙町ほ場では 1 回目調査時と比較して、いずれの区においても出芽率が大幅に向上した。対照「ニシユタカ」と比較して「しまあかり（北海道）」が同等、「しまあかり（長崎）」は大きく劣った（図 2）。天城町ほ場では、1 回目調査時と同様に、対照「ニシユタカ」と比較して「しまあかり（北海道）」が同等、「しまあかり（長崎）」が劣る結果となった（図 3）。なお、出芽揃いについては、「ニシユタカ」と比較して「しまあかり」が約 7～10 日遅れた。

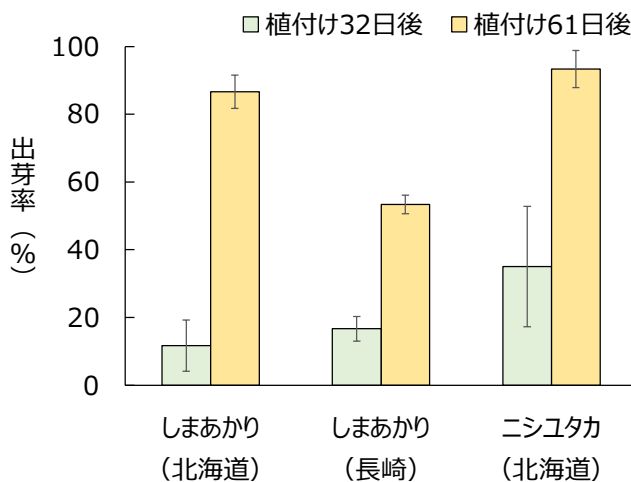


図 1 植付け 32 日後及び 61 日後における出芽率（伊仙町農業支援センター）

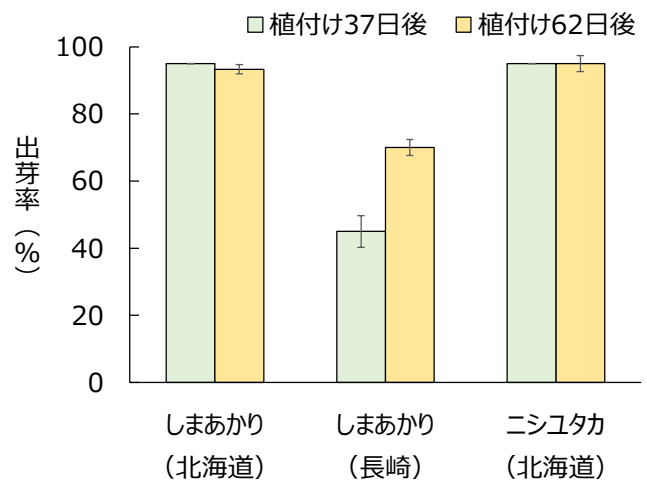


図 2 植付け 37 日後及び 62 日後における出芽率（天城町天城現地）

(2) 収量調査

3 月下旬から 4 月上旬にかけて調査を行う予定である。

4 考察

出芽率調査の結果から、前年度までの試験において、11 月中旬植付けの「しまあかり」が「ニシユタカ」と比較して劣る結果となった要因は、長崎産の種いものが不適であったと考えられる。なお、最終的な評価は収量調査の結果に基づき行う必要がある。

5 残された課題

11 月中旬頃の出芽率での再評価

6 実施者 池之上 祐紀